

レポート #4  
**駒木祭**  
2015.11.2~3

駒木祭は、江戸川大学と江戸川大学総合福祉専門学校が共催する学園祭。

# 野外ステージに響く『青いベンチ』の大合唱

## ■ サスケ特別インタビュー ■

11月3日正午12時、江戸川大学のキャンパスに「青いベンチ」の大合唱が響いた。野外ステージで今回の特別ゲストとして歌を披露してくれたのはサスケだった。撮影・取材：遠藤只光・勝俣遥子 文：遠藤只光



サスケは奥山裕次と北清水雄太の男性デュオ。埼玉出身。高校からの同級生が「サスケ」を結成したのは、今から約15年も前になる。2004年には名曲「青いベンチ」をリリース、その後2009年に一度解散したが、去年再結成をした。そんなお二人に野外ステージでのライブ後、話を伺った。

\*\*\*

ライブお疲れ様でした。とても素敵な歌声で聞き惚れてしました。

ありがとうございます。生の声や観客の顔が見えるのでライブは楽しいです。

最後の「青いベンチ」の大合唱もよかったです。デビューから15年、昔と今で何か変化はありましたか？

いえ、それがまったくないんです。でもむしろ、それが嬉しいですね。15年たっても景色が変わらず、19〜20才の子たちが大合唱してくれる。カラオケで歌ってくれる。そんな歌を歌い続けられるからこそ、もう一度やってよかったですね。

そこが気になっていたので。2009年の解散の理由はなんだったんですか？  
残念ながら、音楽性の違いや喧嘩と言う理由ではないです。

(笑)。「青いベンチ」の発売からちょうど5年たち、自分達も30歳になっていましたから、ひとつの区切りとして解散という道を選びました。特にしんみりもせず、さっぱりしたものでしたよ。

なるほど。そして、去年の再結成。これはある程度考えていたんですか？

まったく考えていなかったです。ただ、「青いベンチ」からちょうど15年の節目の年に、記念に一夜限りのライブか何かやりたいとは思っていました。それがきっかけですね。解散がさっぱりしていたので再結成も「もう一度歌うなら再結成しよう」なんて、軽いものでしたね。

最近「青いベンチ」がカバーされ注目されていますが？

ほんとうにありがたいと思います。テゴマさんのカバーやハメネフで知ってくれた世代も多いだろうし、こんな人気があるとは思っても見なかったです。「青いベンチ」がどういった理由であっても知れ渡るのは幸いです。

\*\*\*

インタビューは終始笑いに包まれていた。「ぼくたちは曲のイメージと違うでしょ？」そんな風に話す二人だったが、そんなことはない。話の節々にてく



右 北清水雄太。左 奥山裕次。二人の笑顔から仲のよさが伝わってくる。

なことはない。話の節々にてくる「感謝」と言う言葉。この気持ちを常に持ち、謙虚に音楽に向かっている彼らだからこそ、やさしく人の心に届く歌を歌い続けることができるのだろう。

そんな彼らに最後にこんな質問をぶつけてみた。

お二人にとって、「サスケ」とは？

サスケのテーマである、せつなさ、甘酸っぱさ、青春感。これはサスケの歌を聞いている人にもあったサスケカラーです。2人だけで作ったわけではなく、みんなで作ったものが「サスケ」なんです。だからこれからは、そんな人達に応援歌やラブソングでお返ししていきたいです。